

## 議長記者会見録

日 時 令和5年5月11日（木）16時から16時22分

場 所 議会棟 3階 議会運営委員会室

### ○議会事務局

それでは、お時間となりましたので、これより議長記者会見を始めさせていただきます。

本日の進行でございますが、まず、徳永議長がごあいさつをいたします。

続きまして、山本副議長がごあいさつをいたします。

その後、幹事社による質問、各社による質問という流れで、会見時間は30分程度を目安にお願いしたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

はじめに、徳永議長から、ごあいさつをお願いします。

### ○徳永議長

本日は、報道各社の皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

このたび、多くの議員のご推挙をいただき、長崎県議会第69代議長に選出いただきました 徳永達也 でございます。

議長という、大役への就任にあたりましては、誠に身に余る光栄であり、その使命と職責の重さを痛感しているところでございます。

はじめに、新型コロナウイルス感染症も、去る5月8日に、感染症法上の位置付けが2類相当から5類に変更され、いよいよ、感染症発生前の日常の生活が戻ってくるものと期待しております。

また、来る5月13日に「G7長崎保健大臣会合」の開催が予定されております。来崎される各国要人をはじめ、関係者、メディアの方々に、長崎の歴史・文化、自然、食などの多彩な魅力や平和への思いを発信するよい機会でもありますので、会合の成功が待たれるところであります。

本県は、現在、コロナ禍で落ち込んだ県内経済の回復・拡大、人口減少、離島、半島及び過疎地域の振興、九州新幹線西九州ルート of 整備、特定複合観光施設（IR）の実現、石木ダムなど、多くの課題を抱えております。

本日の臨時会において、「離島・半島地域振興特別委員会」、「観光・IR・新幹線対策特別委員会」を前議会から引き続き設置することとし、人口減少対策の中で特に重要と判断した子ども子育て、若者支援を審査するため「子ども子育て・若者支援対策特別委員会」を設置しました。

これら、本県が抱えている課題の中で重要と判断された課題の解決に向け積極的に取り組んでいきたいと考えております。

これに加え、「九州新幹線西九州ルート of 整備」、「IR効果の九州地域への波及」、「西九州自動車道の整備促進」、「有明海沿岸道路（鹿島～諫早）の計画の明確化」については、本県議会と佐賀県議会との連携が重要であり、それぞれ議論を深めていく必要があると考えており、議会同士の交流の機会の実現に向けて、協議したいと思っております。

また、石木ダムにつきましては、県議会では、昨年の9月定例会で「石木ダム建設推進

に関する決議」を賛成多数で可決したところであります。

石木ダムは、川棚川の洪水対策、佐世保市の安定的な水源の確保のために必要不可欠であると認識しております。

知事は、工事は工程に沿って進めていくとのことでありますので、知事の姿勢を尊重していきたいと考えており、早期に石木ダムが完成することを願っております。

議会では、これまで、本会議における電子表決の導入、タブレット端末等を活用した電子化した議会資料の配付・閲覧など、県議会のデジタル化に取り組んでまいりました。

今後、SNSを活用した情報発信や議会内における情報伝達の効率化などに取り組んでいきたいと考えております。

近年、地方議会における投票率の低迷にみられるように、議会に対する県民の関心の低下や議員のなり手不足が問題となっております。

長崎県議会では、ふるさとの未来を担う若者を対象に、政治参加意識の醸成と向上を図ることを目的に、長崎県立大学との包括連携協定に基づいた「議会事務局での学生のインターンシップを通じた人材育成」「議員による県立大学での講演」、「議員と学生との交流」、また、高校生を対象とした「議員との交流事業」を実施しており、引き続き、積極的に実施してまいりたいと考えております。

現在、長崎県が直面する諸課題の解決に向けて、県民の皆様の県議会に対する期待は大きなものがあり、議会が果たさなければならない責任は、今後、益々大きくなっていくものと考えております。

今後とも各議員をはじめとした皆様方のご協力を賜りながら、二元代表制の一翼を担う県議会が一丸となって課題解決に取り組み、その役割と責務を果たすことが重要です。

微力ではありますが、これまで培った経験を生かし、公正かつ円滑な議会運営に精一杯努めてまいりたいと思っておりますので、皆様のなご一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。簡単ではございますが、議長就任のごあいさつとさせていただきます。

今後とも、どうぞ、よろしく願いいたします。

## ○議会事務局

続きまして、山本副議長からご挨拶をお願いいたします。

## ○山本副議長

本日、副議長選挙におきまして、多くの議員の皆様のご推挙をいただき、第93代副議長に就任させていただきました島原市選出の 山本 由夫 でございます。

副議長という要職を仰せつかり、誠に光栄に存じますとともに、責任の重さに身が引き締まる思いです。

本県は、先ほど議長からお話がありましたとおり、人口減少であったり、県民所得の低迷であったりという、従来の課題に加えてコロナ禍、それから物価高騰で大変厳しい経済状況に落ち込んでおります。こういった、数多くの課題を抱えております。議会におきまして、これらの課題解決に向けて、その役割を果たせるよう、徳永議長を補佐し、議員の皆様と一緒に、円滑な議会運営に取り組んでまいりたいと思っておりますので、皆様方にもご協力を賜りますようお願い申し上げます。副議長就任のご挨拶とさせていただきます。

す。

よろしく申し上げます。

#### ○議会事務局

それでは、幹事社の方から質問をお願いいたしたいと思います。

#### ○読売新聞

多くの期待を受けて、今回当選されたかと思うのですが、改めて、決意だったり、県民の皆様に対してどういった対応をしていきたいと考えておられるのかお尋ねしたい。

#### ○徳永議長

今回の選挙は、特に長崎市選挙区は定数14に対して23人という、大変多くの候補者が出ておりますけれども、一方では、無投票の選挙区もある。

その中で、若者の政治離れといいますか、立候補する人が少ない地域が見られる。

今後、政治に若い人たちが積極的に参加できるような体制を作るというのが、我々の大きな責任ではないかと思っております。

#### ○読売新聞

今回の選挙の結果としては、自民党以外の政党への支持が長崎市内にはあったと思うが、他の政党だったり、いろいろなところに、年齢が若い人の期待感というところが増えていると思うのですけれども、議会としてどういう改革を進めていきたいと思えますか。

#### ○徳永議長

そこは、ほんとうに真摯に受けとめています。

従来であれば、自民党か非自民か、その非自民の中でもいろいろな党が出ていますし、無党派層を取り入れる候補者もおられます。

議長ですので、各党への見解は差し控えるべきだと思っております。

全体的に考えれば、4年に1回の統一選で、やっぱり変わったな、さらに4年すれば、どういうふうになるのか、そしてその投票率がどうなのかと考えます。

投票率はまた下がるのではという認識はありますから、やはり上げていくということが、我々県議会の役割、私の議長としての役割じゃないかなと思っております。

#### ○議会事務局

続きまして各社の方から、質問をお願いいたします。

#### ○長崎新聞社

まず、議長にお伺いしたいのですが、大石知事をどのように評価されていて、今後、大石県政とどのようなスタンスで向き合っていきたいとお考えなのかお尋ねしたい。

○徳永議長

大石知事は、1年前に県民の負託を受けられ当選をされました。

我々もこの1年、知事の政治姿勢というものを拝見をさせていただき、非常に長崎県の問題について、積極的に取り組んでいるのではないかなという思いがあります。

議会とすれば、二元代表制で、県政の一翼を担っておりますので、しっかりと大石知事と連携を取ってやりたいと思います。

特に、県の課題の中で、非常に重要なところは、当然、一緒にやらなければなりませんけれども、議会として、意見を言うべきところはしっかりとって、そして両輪として、一緒になって頑張ろうと思っております。

○長崎新聞社

議長に就任されるにあたって、自民党県連の幹事長を辞任されるということですので、改めて理由を含めてご説明をお願いします。

○徳永議長

幹事長は、辞任はします。

現在、県連会長に辞職願をお預けをしております。

○長崎新聞社

過去に、議長と兼務された事例もあるかと思うのですが、あえて辞任された理由を少し。

○徳永議長

自民党内での議員の議会と党務とは分けるほうがいいのではという意見もあり、私も当然だろう考えたところです。

議長に就任した以上は、公務をしっかりと努めるのが仕事だと思いますし、党務については、自民党県議団の中で対処していただければと思っております。

○西日本新聞社

先ほどの質問と重複する部分がありますが、議長は、県連の幹事長の職を、まだ、辞任されているわけではないのですか。

○徳永議長

今日、議長に就任したので、県連の事務局に辞職願をお渡しをしております。

○西日本新聞社

議長選の投票で、共産党以外の皆さんから投票があったと思うのですが、他の会派に対しての働きかけを行われた上での結果なんですか。

○徳永議長

各会派のご判断とっております。

○西日本新聞社

県議選でも投票率がなかなか伸び悩んでいるという点で、何か具体的に先ほどのSNSという話もありましたけれども、議長としての方針とか、具体的にやっていきたいことが、あれば教えてください。

○徳永議長

非常に、これは難しい問題で、もう、SNSとかインターネットを使いながら発信はしております。

特に、若い人に聞けば、見ている人は見ている。

ただ、投票行動になかなか結びつかないというのが現状で、ちょっと研究をしないと、投票率が上がるのは、難しいのではないかと感じており、そこは、研究していきたい。

○長崎新聞社

先ほどの質問で、辞職願を今日持っていかれたというお話だったのですが、今の時点では幹事長で、辞職願は、受理はされたということでしょうか。

○徳永議長

今日の本会議の議長選挙で、議長に就任しましたので、それをもって提出しました。

○毎日新聞社

議長、副議長の任期には、慣例があるのでしょうか。

○徳永議長

地方自治法では4年です。

○長崎新聞社

議長選に立候補した思いを教えてください。

○徳永議長

この17年、議員として自分なりに活動して参りました。

6期の議員は皆さん議長を経験されており、そういう意味では非常に大きな節目の期数であり、そして今までの経験が生かせるものだと認識をし、今回議長に立候補したところです。

○長崎新聞社

ご自身のカラーというか、どのような議長でありたいというか、何かそういったものがあれば、教えていただきたい。

○徳永議長

自分なりに自己分析した時は、調整型だと思っています。

自民党も30人の議員がおり、自民党会派もいろいろなことがありましたので、まず、しっかりとまとめていく、そして、それ以上に、46人の議会を円滑に運営をしていく。

そしてまた、議長として平等に運用するという役割を担えるのではないかなという認識はあります。

○議会事務局

他に質問ございますでしょうか。

ないようでしたら、以上で、議長記者会見を終わらせていただきます。

※ 発言内容については、わかりやすいように一部変更している部分があります。